

建設緑政局民間活用事業者選定評価委員会（生田緑地） 会議録

（生田緑地、川崎市岡本太郎美術館、川崎市立日本民家園、川崎市青少年科学館 令和5年度評価）

日 時	令和6年8月9日（金）10:00～11:30	場 所	多摩区役所 1 1 階 1 1 0 4 会議室
出席者	垣内委員長、前田委員、小林委員、新井委員		
事務局	建設緑政局生田緑地整備事務所 松本所長、北澤課長補佐、藤田担当係長、菅野主任 市民文化局岡本太郎美術館 佐々木副館長、重森担当係長 教育委員会日本民家園 藤川担当係長 教育委員会青少年科学館 久保館長、渡邊担当係長		
傍聴者	2名		
議 題	指定管理者管理運営業務の年度評価について		
	1 開会 ・建設緑政局緑政部長が公務により欠席のため生田緑地整備事務所長より開会の挨拶 ・川崎市附属機関設置条例第8条第3項に基づき、委員の互選により垣内委員が委員長に選出される。 ・委員全員の出席により、川崎市附属機関設置条例第7条第2項の規定により成立。 ・川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づき公開とする。 ・会議録は要約方式により作成。会議録は全委員により確認するものとする。 ・会議録は発言者が分かるよう委員名を記載し、公文書開示請求があった場合は委員名は原則開示されることを確認。 ・審議の中で事務局から発言を求める際は委員長の許可を得ることとする。 2 議題 事務局より、令和6年6月に発生した指定管理者職員による生田緑地公式Xの誤配信の経緯を報告。また、本事案につながる組織管理体制の不備が令和5年度から続いていたと判断し、令和5年度の評価において反映することについて説明後、評価の内容全体について説明を行った。		
垣内委員長	「1. 基本事項」、「2. 事業実績」については、特段変更はないと思うが、何か御意見はあるか。		
前田委員	今回の年度評価シートの項目が変更されているが、変更点と変更理由を簡潔に説明していただきたい。		
事務局	・「利用者満足度」のうち「協働の取組」について、第2期は「自然環境の保全」としていたが、自然環境保全も含めた協働の取組全体の評価とした。 ・「魅力の向上」について、伝統工芸館を明記した。 ・「収支計画・実績」のうち「適切な金銭管理・会計手続」について、預り金は発生しない運営となっているため、実態に合わせた。 ・「組織管理体制」のうち「市内中小企業の活用」と「障害者雇用」について、募集時に提案があった項目については、評価を行うこととしているため、追加した。		
垣内委員長	行政ニーズや募集要項との整合性を図った内容とお見受けする。		
垣内委員長	「3. 評価」について各項目ごとにまとめていく。 「利用者満足度」について、評価段階が「4」となっている項目について、何か御意見あるか。評価段階、理由について問題はないか。飲食が拡充したと読み取れる。		

各委員	(異議なし)
垣内委員長	では事務局案のとおりとする。
垣内委員長	「収支計画・実績」については、財務の専門家である新井委員から御意見を伺いたい。
新井委員	第3期になって指定管理料が7,000万円増えている。必要な金額を踏まえた指定管理料だと考えるが、前年の2,000万円の赤字から1,000万円の赤字と、赤字が減っただけとなっている。人件費やエネルギーコストの高騰の中でうまくコントロールしているとは思いますが、指定管理料が7,000万円増えても収支がプラスになっていない。マイナス評価とまではいかないが、プラスにすべきでもないというなかで「3」評価という理解で良いか。
事務局	評価が前回の「4」より下がったが、初年度のため、今後への期待を込め事務局案とした。
新井委員	これから良くなって、来年度以降「4」という形になれば良い。
垣内委員長	赤字が減少したが、続いているという点は事務局としてはどうか。
事務局	指定管理者もマイナスになっているのは良いことではないと認識している。初年度で、機器の入れ替え等もあったところであり、緑化フェアを契機として盛り上げて、来園者を増やし、お金を落としてもらおうと考えていることは確認している。
垣内委員長	初年度、投資をしている。また、飲食が充実してきているので、滞在時間も増えると思われる。今後に期待している。
小林委員	自主事業の収入が増えたおかげで収入が改善しており、5年前から倍増している。指定管理の業務全体のバランスを考えたときに、このバランスで良いか、検討していく必要がある。
垣内委員長	事務局としてはどう考えるか。
事務局	まだ分析はできていないが、緑化フェアで来園者が増え、関心を持っていただける方が増えるのではないかと。指定管理料が5年間変わらないなか、自主事業について、どのくらいプラスアルファとなるか検討していくこととしたい。
小林委員	自主事業で全体としてのプラスを保っている。オーバーユースの問題もあり、質を維持しながら量をどう拡大していくかを考える必要がある。
垣内委員長	キャリングキャパシティや利用の平準化については、言うのは簡単であるが、難しい問題である。シートの指導事項にこの点について記載する必要があるか。
小林委員	シートそのものを変える必要はないと考える。平準化は難しい問題である。過剰に人が入ってきたときにどうマネジメントできるかについて、評価するのは早い。検討する時期であるとする。
垣内委員長	「収支計画・実績」については、仮に事務局の案どおりとしておく。
前田委員	駐車場について、利用料金の値上げを行ったところであるが、利用台数は9,900台減っている。収入は増えているが、この点についての事務局の考え方を伺いたい。
事務局	駐車場の料金については、以前は近隣よりもかなり安い金額だったことから、値上げで目的外の利用が減少したと推測され、来園者の減少につながったわけではないと考えられる。値上げの理由の一つである、渋滞の緩和については、駐車待ちによる苦情もほとんどなくな

	り、効果が見られる。値上げに関する来園者からの意見に対しても説明を行っている。また、ボランティアに対する利用料金の減免も行っており、概ね評価しているところである。
垣内委員長	「サービス向上及び業務改善」について御意見はあるか。提案時にエリアマネジメントの取組を挙げていて、どうかと思ったが、評価を見て、こういうことかと感じた。
各委員	(意見なし)
垣内委員長	「組織管理体制」について、特にコンプライアンスの項目について各委員に御意見を伺いたい。
新井委員	厳しい内容とは思うが、昨今の、判明したタイミングでタイムリーに公表・改善していくことが求められるなか、このようなことが起こる土壌があり、起こったタイミングが今回の評価時になったということで、今回の評価は妥当と考える。
小林委員	通常なら来年度(今年度分)の評価に反映されるところだが、今回評価して早速改善に取り掛かれるという点では、良いと考える。
垣内委員長	事務局案どおりとして良いか。
各委員	(異議なし)
垣内委員長	「適正な業務実施」について、何か意見があるか。事務局案のとおりで良いか。
各委員	(異議なし)
垣内委員長	評価シート全体について、事務局案のとおりとして良いか。評価点もこのままとなる。「7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等」について、付け足す文言はあるか。先程意見のあった、質の向上について、生田緑地の魅力の向上や質に配慮というような文言を入れるか。それともこのままで良いか。
小林委員	このままで良いと考える。
前田委員	「6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価」に記載されているXの誤配信について、令和6年6月とあるが令和5年度から誤配信につながる体制であったという記載がないと評価対象年度ではないのではないかとと思われるため、入れた方が良い。
垣内委員長	では、Xの誤配信について、これにつながる土壌が令和5年度からあったということが分かるように明記し、文言については事務局に任せることとして、この一点を除き評価シートを決定して良いか。
各委員	(異議なし)
小林委員	「7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等」についてこのままで良いか。最初の「サービス向上の取組」の内容として、ファミリー層を意識した取組の展開とあるが、エイジング社会であり、高齢者に向けた魅力の発信も重要であると思われる。
垣内委員長	その点についても大事なことであり、7の最初の文にSDGs及び地域包括ケアシステム推進ビジョンに言及している。
事務局	忙しいファミリー層に特にアピールするという考え方から、特に記載したもの。補足したい。

小林委員	情報発信の質を高める仕組みについて、セキュリティだけではなく魅力の向上につながる発信を高めてフィードバックしていくことが将来的に重要性が高まると考える。
事務局	仕様がどこまで求めているかの確認をしながら、指定管理者との対話のなかで確認していきたい。
垣内委員長	委員会での意見を全部評価シートに盛り込むということではなく、指定管理者と共有していくということにしたい。
前田委員	8月10日に生田緑地がテレビ番組で紹介される。このような放送での魅力発信について、次回の評価に入れられるようなものか。
事務局	他の媒体も含め、評価できるところは評価していく。
垣内委員長	生田緑地は川崎の宝のような場所である。事務局と指定管理者が情報共有し、魅力を発信していくことを期待する。
	3 閉会